

ダンボール箱による生ごみ堆肥化レシピ

(生ごみの減量・リサイクルにチャレンジしてみませんか！)

はじめに

熊本市では家庭から排出される生ごみの減量・リサイクルを推進しています。みなさんの家庭から出る生ごみは、燃やすごみの約1/3を占めており、生ごみを堆肥化し有機肥料として再利用することで家庭から排出される燃やすごみの削減につながります。

家庭で生ごみを処理する方法はいくつかあります。

- ① 電気式生ごみ処理機（乾燥式及びバイオ式）を使用した処理。【熊本市助成対象】
- ② 生ごみ堆肥化容器（コンポスト容器）を使用した処理。【熊本市助成対象】
- ③ 段ボール箱を使用する生ごみ処理。【熊本市助成対象外】

ここでは段ボール箱を使った生ごみの堆肥化を紹介します。

用意するもの

- 段ボール箱
- 新聞紙
- ピートモス（20㍓／600円程度）
- もみ殻くん炭（20㍓／600円程度）
- 温度計
- 移植ごて
- 角材（木片など）
- 布製キャップ



※ピートモス、もみ殻くん炭はホームセンターなどの園芸コーナーで購入できます。

実際に始めてみましょう！

1. 容器の作り方

- ① 段ボール箱の内側に新聞紙をあてる。
(ダンボールの傷みを防ぐため。)
- ② ふたを用意する（通気性を良くするため、メリヤス布などを被せるようにするのが好ましい。)
- ③ 通気性を保つため、床に木片などを敷きその上にダンボールを設置する。



2. 素材の調合

- ① ピートモスともみ殻くん炭をダンボールに（ピートモス：6、もみ殻くん炭4）の割合で混ぜます。
- ② 混ぜながら、手で触れてしっとりするくらい水を注ぎます。



3. 使用方法

- ① 生ごみを投入する

【生ごみを入れる際のワンポイントアドバイス】

- ・生ごみを投入する前に小さく切りきざむことで、早く分解します。
 - ・塩分を多く含むものや、魚などの生ものは熱湯にさらすといいでしょう。
 - ・水分を多く含むものは『ひとしぼり』して入れましょう。
 - ・生ごみの投入量が多すぎると水分が多くなり、臭いが発生する恐れがあるので投入量を調整しましょう。（段ボール箱内の堆肥化が順調な場合、それほど臭いは気になりません。）
- ② 生ごみ投入後は必ずかき混ぜる
 - ・発酵には酸素が必要です。下から全体をしっかりと混ぜましょう。
 - ・発酵促進のため、生ごみを投入しない日も毎日かき混ぜましょう。
 - ・2～3ヶ月程続けると生ごみを投入後に温度が上がらなくなり表面に粘りがでてきたら終了のサインです。

★★★虫、カビの発生に注意しましょう★★★

- ・段ボール箱には必ずふたをしましょう。（虫の侵入を防ぎ保温効果、臭い防止にもなります）
- ・生ごみを三角コーナーに長時間放置しない。（段ボール箱への投入前に虫の発生を防ぐ）
- ・生ごみの投入後、最初に白いカビが発生することがありますが問題はありません。
- ・段ボール箱内の温度が40℃前後の状態が基材の水分蒸発がうまく行われている目安となり、カビ等が発生しにくい状態です。（温度が上がらなくても堆肥化は進んでいますので、無理にダンボール内の温度をあげる必要はありません。）

※ 虫やカビの発生がひどい場合は、一旦中止し天日にさらして再度始めることをお勧めします。

4. 堆肥として使用する

- ・終了後は、段ボール箱から大きなバケツなどに移し、1ヶ月ほど熟成させます。
- ・栄養価の高い堆肥ですので、家庭菜園や家庭用プランターなどで使用できます。
- ・腐葉土と混ぜてプランターや畑で使用してねかせることも可能ですが作物の根に直接触れないようにしてください。